
航空研究センター創設に寄せて

航空開発実験集団司令官

空将 岩成 真一

このたび幹部学校航空研究センターが御発足とのこと、誠に喜ばしく心からお祝いを申し上げます。

航空自衛隊創設60周年、航空自衛隊幹部学校としても、創立60周年のこの年に、航空戦略・戦術の教育・研究を極め、航空自衛隊の明日を拓く幹部学校に研究センターが満を持して新設されることは、航空自衛隊にとっても清新な慶事だと思います。

我が国を取り巻く安全保障環境は、様々な課題や不安定要因が存在し、その一部は顕在化、先鋭化、深刻化しています。中でも、我が国周辺の安全保障環境は、冷戦終結後も、国家間などの対立の構図が残るなど、依然として領土問題や統一問題を始めとする不透明、不確実な要素が残されており、この1～2年を見ましても、北朝鮮による弾道ミサイルの発射や核実験実施を含む挑発行為、中国による我が国領海侵入及び領空侵犯を含む、我が国周辺海空域における活動の急速な拡大・活発化、ロシアによる引き続き活発化の傾向にある軍事活動などが見られ、緊張の度合いは高まっています。

アジア太平洋地域に視野を広げると、多くの国がその経済成長を背景として、国防費の増額や新装備の導入など軍事力の近代化を行っています。とりわけ中国は、継続する高い国防費の伸びを背景に軍事力の広範

かつ急速な近代化を推進しており、各国が不信感や誤解を抱く可能性が指摘されています。このように、我が国周辺を含めて、一層厳しさを増す安全保障環境にあるアジア太平洋地域においては、その安定のため、米軍のプレゼンスは非常に重要であり、同盟国である我が国の役割が注目されています。また、近年、この地域では、東南アジア諸国連合地域フォーラム（ARF）に代表される多国間の安全保障対話による安定化の取組が行われており、軍事力のみには頼るのではなく、硬軟両面での安定確保が図られており、安全保障環境の構築に複雑な要因が絡んでいるといえます。

さらに、近年では、海洋、宇宙、サイバー空間の安定利用に対するリスクが新たな安全保障上の課題となってきています。軍事科学技術の一層の進展や情報通信技術の進展などを反映して、宇宙空間やサイバー空間といった領域における活動が、国家の安全保障や人々の生活にとっての重要な基盤になっている上に、国際的な物流を支える基礎として重視されてきた海上交通の安全確保についても、これからの大きな課題でしょう。

このように、今日の国際社会は、多様で複雑な安全保障上の課題や不安定要因に直面しており、これら課題等は同時に、また、複合して生起することもあり得ます。そして、これらに対応するための軍事力の役割も、伝統的な、紛争の抑止と対処の範囲を超えた多様な活動に依拠していかなければなりません。

このたび創設された航空研究センターは、正にこういった防衛力の役割及び航空自衛隊を取り巻く環境の変化に対応し、将来にわたり各種事態に的確に対応し得る航空防衛力の整備・運用に資する研究に取り組まれていくのでしょうか。航空戦略理論やドクトリンに関する研究を深めるとともに、部外に対して積極的に情報発信していただきたいと思います。また、教訓収集を含め、事態対応に関する質の高い研究を推し進めて、防衛力整備や部隊行動時の各種計画等に反映、活用されるような英知の集約体として、その地位を確立していただきたいと思います。

研究や開発といった分野は、構想や計画どおりに成果が結実しないもどかしさに向き合うこともあるかと思えます。困難な時こそ、幹部学校長の統率の下、全隊員が一丸となって総力を結集して、所要の研究を成就させられんことを切に願います。

最後になりますが、学校長をはじめ幹部学校所属の皆様のご多幸とご健勝を、心から祈念いたします。